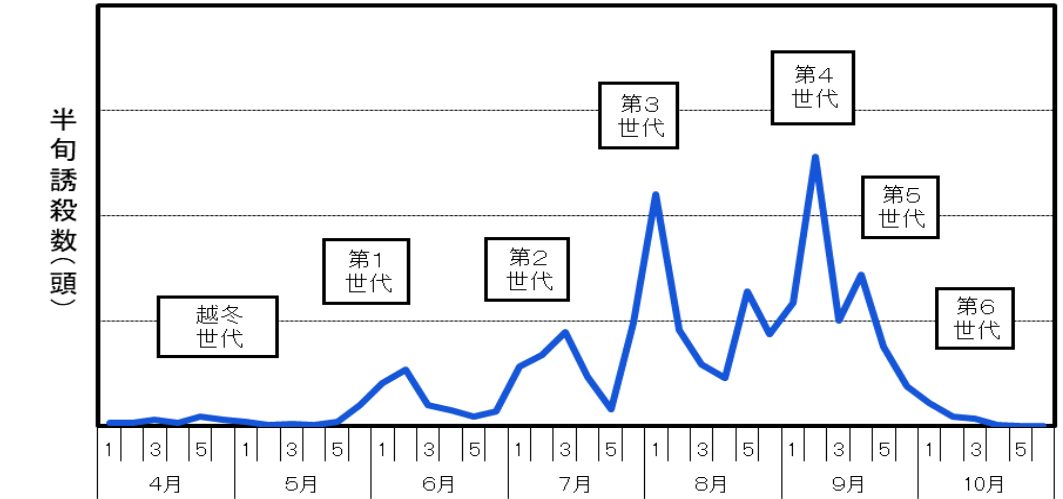


モモハモグリガのフェロモントラップ誘殺消長 [令和7年(2026年)調査]

病害虫防除部

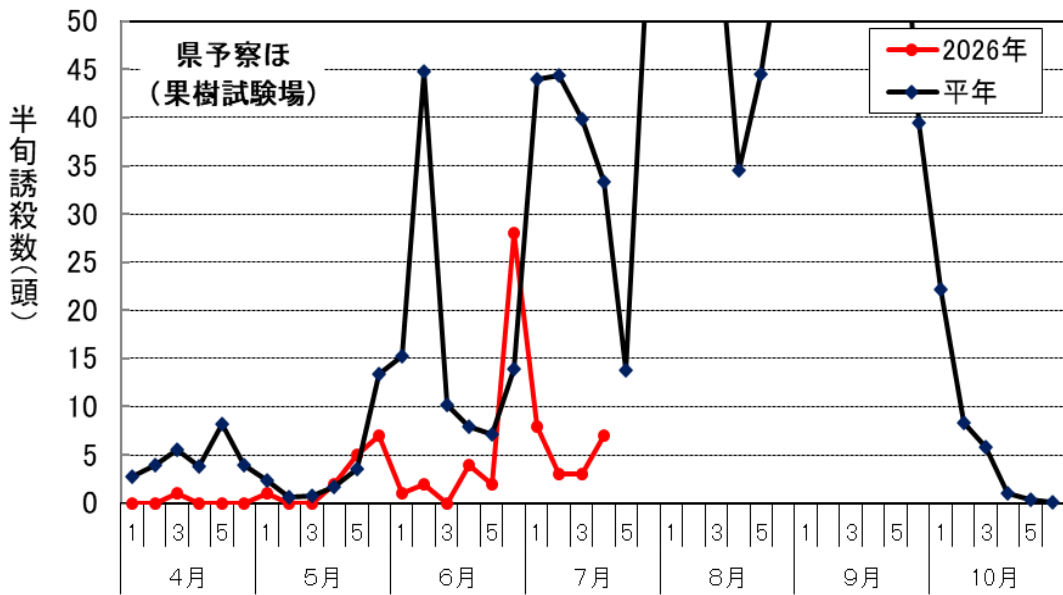
過去10年間の消長模式図（長野県果樹試験場内 県予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年6～7回発生する。
- ・各世代成虫の発生最盛期は、越冬成虫が4月下旬、第1世代は6月上旬、第2世代は7月中旬、第3世代は8月上旬、第4世代は8月下旬、第5世代は9月下旬、第6世代は10月中旬頃である。
- ・寄生量は第3世代から急増し、第4、5世代は高密度となる。
- ・発生が多くなる第2～4世代の防除が重点になる。
- ・薬剤防除の目的は、主に幼虫による葉への食入防止である。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



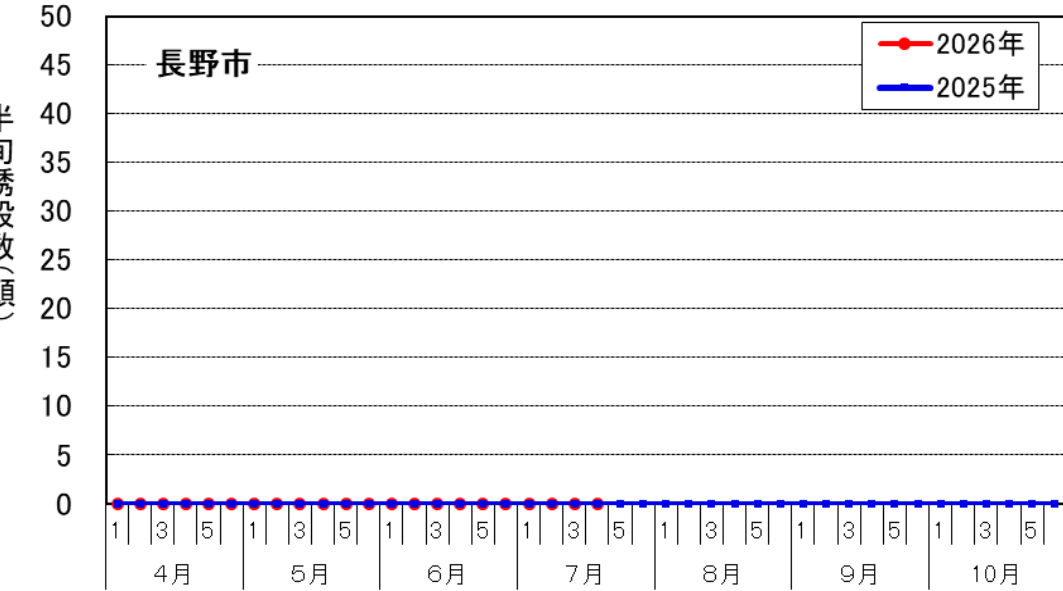
【調査地点】（標高約350m）

- ・須坂市 果樹試験場（ももほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・誘殺頭数は、平年と比べ少ない状況が続いている。
- ・6月末に一時的に誘殺数が増加したが、すぐに減少した。
- ・7月第4半旬にやや増加したが、本年の各世代の発生がそれぞれ少しずつ平年より早いことを考えると、8月に向け、このまま増加していく可能性もある。

○長野市（病害虫防除部）



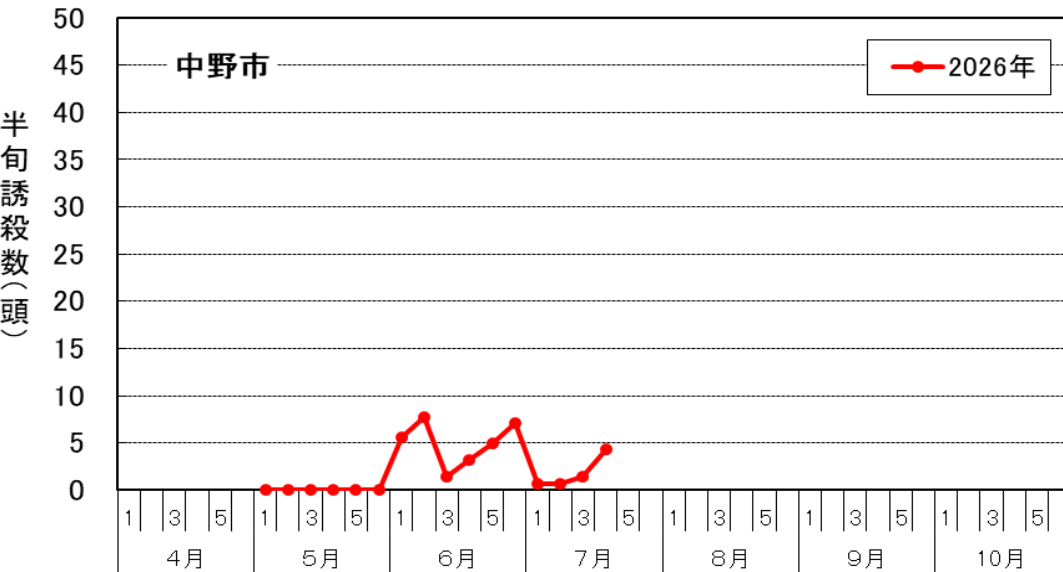
【調査地点】（標高約343m）

- ・長野市（ももほ場）
- ・2024年にほ場を変更したため、平年値はない。

【コメント】

- ・設置してあるこのモモ園は、平年でも誘殺がほぼない。
- ・今年度も7月第4半旬時点で誘殺はみられていない。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約340m）

- ・中野市（ももほ場）
- ・2026年に調査地点を変更したため、平年値、前年値なし

【コメント】

- ・5月から観察を開始。6月に入り誘殺が認められるようになった。
- ・7月第4半旬時点で、ここまでの増減のパターンが、ほぼ、ほぼ同じ軌跡となっている。